



## レボホリナートと5-FUによる治療で どのような症状の副作用がみられますか？

A

### 吐き気・嘔吐、食欲不振

吐き気・嘔吐は抗がん剤による胃腸の粘膜や脳への刺激などによって起こると考えられています。お薬で予防や症状をコントロールできますので、つらい場合は、医師、薬剤師、看護師にご相談ください。



#### ～日常生活の注意点～

- ▶ おおいを不快に感じるものは近くに置かない
- ▶ 脂っこいものは避ける
- ▶ 食べられるものを少量ずつ食べる
- ▶ 食後すぐ横にならない
- ▶ 食べ物のにおいは冷まして緩和させる

注) オキサリプラチンやイリノテカンを併用する治療では、症状が起こる可能性が高まります。

### 口内炎

口や舌の粘膜が刺激され、炎症が起こることがあります。症状がひどくなると出血や痛みを伴い食事や会話に影響する場合がありますので、口腔ケアを心がけてください。



#### ～日常生活の注意点～

- ▶ 虫歯がある場合は前もって治療を行い、義歯は調整しておく
- ▶ 歯ブラシはやわらかいものを使い刺激を避ける
- ▶ こまめにうがいをし、口の中を清潔に保つ
- ▶ 喫煙や飲酒など、刺激物は避ける



## レボホリナートと5-FUによる治療で どのような症状の副作用がみられますか？

A

### アレルギー反応

点滴を受けている間や終わった時に、ショック症状があらわれることがあります。急に息苦しくなったり、急激にかゆくなったり、全身に発疹が出たりしたら、すぐ医師、看護師に伝えてください。

また、以前にお薬や注射で湿疹やかゆみが出たことがある場合は、治療を始める前に、必ず医師、看護師に伝えてください。



注) オキサリプラチンやイリノテカンを併用する治療では、症状が起こる可能性が高まります。

OHARA 大原薬品工業株式会社

〒520-3403 滋賀県甲賀市甲賀町鳥居野121-15

201310-5KK

監修

愛仁会 太田総合病院  
外科部長  
関 英一郎



# レボホリナートの治療を 受けられる患者様へ



## レボホリナートは どんなお薬ですか？

A

レボホリナートは、栄養成分の1つである葉酸というビタミンをもとに作られたお薬です。レボホリナート自体は抗がん剤でなく、抗がん剤の副作用軽減や、作用増強に用いられる補助剤です。レボホリナートは、抗がん剤フルオロウラシル(5-FU)と一緒に使うことで、5-FUの抗腫瘍効果を増強させる働きがあります。

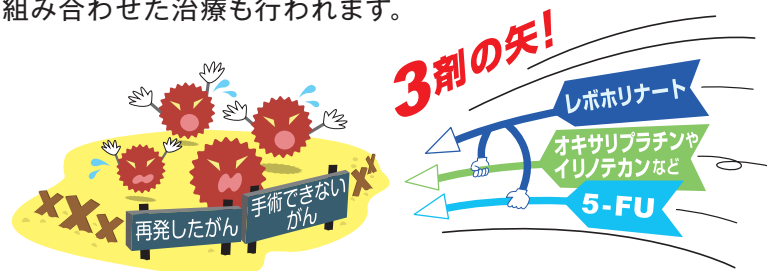


## レボホリナートと5-FUによる治療は どんな時に行われるのですか？

A

レボホリナートと5-FUによる治療は、通常、手術できないまたは再発した胃がんや大腸がん(結腸・直腸がん)に対して行われます。また、大腸がんでは、手術の後に再発を予防する目的で行われる場合もあります。

最近では、手術できないあるいは再発した大腸がんに対して、レボホリナートと5-FUに加え、オキサリプラチンやイリノテカンなどの別の抗がん剤を組み合わせた治療も行われます。



## レボホリナートと5-FUによる治療でどのような症状の副作用がみられますか？

A

### 下痢

抗がん剤により消化管の粘膜が損傷を受けると下痢が起こることがあります。通常は数日で回復しますが、長く続くと必要な栄養素や水分が排出されてしまい、体調を崩す原因となります。



#### ～日常生活の注意点～

- ▶ 脱水症状を避けるためにスポーツドリンクなどで水分を十分に補給する
- ▶ 乳製品や香辛料の強いもの、脂っこいもの、コーヒー、アルコール等の刺激物は避ける
- ▶ 繊維質の多い食品は避け、消化の良いものを食べる
- ▶ バナナやリンゴなどカリウムの多い食品をとる
- ▶ 排便後は肛門の周りを清潔に保つ

注) オキサリプラチンやイリノテカンを併用する治療では、症状が起こる可能性が高まります。

### 皮膚の異常

顔や手足に発疹や赤みがあらわれたり、皮膚や爪などが黒くなることがあります。また、手足症候群といって、手足の腫れや痛み、感覚麻痺、赤み、乾燥、かゆみなどが起こることもあります。



#### ～日常生活の注意点～

- ▶ 直射日光を避ける
- ▶ 保湿クリームを塗る
- ▶ 爪を短く切る

A

### 末梢神経障害

抗がん剤により、手足や口のまわりにしびれや痛みがあらわれたり、ピリピリしたり、感覚が鈍くなったりすることがあります。



#### ～日常生活の注意点～

- ▶ 冷たい空気にふれないようにする
- ▶ 底が厚い靴をはく
- ▶ 冷たい食べ物や飲み物を避ける
- ▶ 火や包丁の扱いに注意する
- ▶ 冷たい物は素手でさわらない

注) オキサリプラチンやイリノテカンを併用する治療では、症状が起こる可能性が高まります。

### 白血球の減少

抗がん剤の作用により、骨髄の造血機能が低下し白血球が減少することがあります。このため抵抗力が落ち、風邪や肺炎などの感染症にかかりやすくなります。発熱、悪寒、のどの痛みや咳などの症状がある場合は医師に相談しましょう。

#### ～日常生活の注意点～

- ▶ 外出時はマスクをする
- ▶ 外出から戻ったら手洗いうがいをする
- ▶ なるべく人ごみは避ける
- ▶ 入浴し、からだは清潔にする



注) オキサリプラチンやイリノテカンを併用する治療では、症状が起こる可能性が高まります。